



## ○終業式(本校・分校では話を一部変えています。) アスバルに設置されたボランティアセンター⇒

このたびの豪雨により被災されたみなさまに心よりお見舞い申し上げます。未だ不便な生活をしているご家庭もあると承知しています。一日も早い復旧を願うとともに、一人一人ができることで協力できればと思っています。学校としては、今回のことを教訓として活かしていくとともに、一日でも早く通常の学校生活が取り戻せるようつとめていきます。また、そのために全教職員、全校生徒が協力し合っていければと思っています。



大雨の翌日は本校・分校とも休校でしたが、野球部の寮生たちが、ボランティアで被災した住宅の片付けにあたったというニュースがNHKで放送されました。このニュースを見て、本校校歌の一節「われらの三高ここにありと。ひとしくともに誇るべし。」の気持ちになった人もいます。JRC部も募金を始めました。ボランティアセンターを通じて活動した生徒もいます。こうした行動は、生徒一人一人が普段から行動したり、思ったり、感じたりしていることの延長線上にあり、保護者はもちろん、学校関係者や地域の方々への感謝の気持ちを持ちながら学業や諸活動に取り組み、その活動や元気のいい挨拶で町を明るくする本校・分校生徒を代表しての行動であったと思っています。昨年度も部活動単位や個人で地域のボランティアに従事していたと聞いています。

今回ふと10年ほど前に勤務していた学校での出来事を思い出しました。1月の大雪となったある日の早朝、学校に行くど何人かの生徒達が昇降口やそこまでの坂道の雪かきをしていました。当時3年学年主任をしていたのですが、よく見るとそれは推薦で合格した生徒達でした。「これからセンター試験に向かう仲間のためにできることを考えた結果、本番前にケガをしないようにと思って誘い合ってきました。」と話してくれました。この年、後期日程の直前に東日本大震災が起きました。その翌日多くの3年生が、卒業式後にもかかわらず学校に来て、「後期日程を受けられるかどうかかわらず不安な仲間のためにできることはほとんどないが、街頭に出て募金活動することで誰かの力になりたい」と言ってきました。雨の中、急ごしらえの募金箱を持って町に出て行った生徒達の姿を思い出します。ちなみに、この年の進学成績は最終的に近年にない良いものでした。

こうした行動は、昨年香港の民主化運動で有名になった「水になれ」という言葉のような行動でした。みんなが水のように一体となって、それぞれがかかわるがわるリーダーになる主体的行動者の集団と理解しています。

ボランティアには目の前の人のためのもの、献血や募金のように見知らぬ誰かのためのもの、また未来の人のためのものなどがあります。それは「恩送り」となって広がっていきます。

ドラゴン桜を観た人もいます。ドラマの中で、桜木先生が、東大入試に出題された問題を例に、自分中心的な視点しかない人間は東大では求めていないと明言していました。広い視野を持って多角的な視点から物事を考えることは、他者を大事にすることにも通じているということだと思います。ドラマでは、自己中心的ですぐ人を見下した言動をするある生徒が、入試本番の大事な場面で、友人を助けて右手をけがしてしまい、そのことが原因の一つとなり不合格になりました。桜木先生はその生徒に、そして生徒自身も絶対に来年は合格する、できると断言していました。ドラマ全体でも東大入試に挑む生徒達が、チームとなって支え合う場面が何度も出てきます。桜木先生は、何のために東大に行くのかも幾度となく問いかけていました。

まずは一步を踏み出す、挑戦する勇気。そして助け合いや他者を気遣う意識を持つこと。なにより自分自身が確かな、大きな志を持つことができれば、夢の実現も自ずと見えてくるということではないでしょうか。

**「小さな挑戦、小さな善行、確かな(大きな)志」**の意味もそこにあります。

3年生にとっては就職、進学に向けて大事な夏です。1,2年生にとっても学業、部活動などで主体性を身につけいく大事な時期です。有意義な夏休みにしてください。